



2015 **2** February

| SUN | MON | TUE | WED | THU | FRI | SAT |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |

えっと…どうですか？

…ふむ、少しばかり、甘さが足りないんじゃないか？

え？そんなはずは…

試しにアンタも食べてみる、ほら

味見はちゃんとしたんですけど…おいしいなあ…

…素直なもんだ
これだけ長いこと、俺と一緒に過ごしてきて
揺れる尾の意味するところにまったく気がつかないとか

俺には分かる
アンタは真剣な顔して
味を確かめて
そんなことないですと
いつものように言い返してくる

そうしたら
その真面目な反論ごと
薄紅色した柔らかな唇ごと
もう一度、クッキーとやらを味わうことにしよう

きっとそれはひどく甘く蕩けて
絡めた指が伝わる熱よりも遙かに疾く
二人の境界を慥かに溶かしていく

この、特別な
一日の終わりに